

クナール河増水、護岸工事に全力

日本からジャララバードに戻ってみると室内温度が **38°C**、何度も寒暖計を見ました。当地は暑く、雨がありません。クナール河沿いでは上流のヌーリスタン、クナールで夕立程度の雨が時々あるだけです。高気温で雪解けによる増水を心配していましたが、昨年の降雨降雪が極端に少なかったことを考えると、おそらく今夏は河川水量が落ち、むしろ早めの水位低下を警戒すべきだとの印象です。

しかし、それは集中豪雨がない場合のことで、突発的・短時間の集中豪雨はやはり注意すべきです。**2010年**、**1500m** 地点から侵入した洪水路の処置が、おっかなびっくりで進められています。(あの時も確か、熱波に続く巨大モンスーンの発生があり、7月に入ってから集中豪雨が多発しました。)本格的な護岸は数年かかりますが、何とか仮工事を進め、不意の事態に備えます。

そうは言っても、ここは人の言葉が通じない世界です。「不意の事態に備える」とは、こちらの単なる決意表明であって、備わるかどうかは別の次元です。調べるほどに、真相は玉ねぎの皮の下に隠れてしまうようで、自然は恐ろしいと思いました。洪水進入路が複数で流出路もバラバラ、まるでジグゾーパズルでも解くように整理し、護岸の位置と方法を決定していきます。現在、**1500m** 地点と並ん

で、最も脆弱なのが **3.6 km～4.8 km**間の川の狭窄部 (**C** 岩盤対面) で、浸食・決壊の危険があり、工事を急いでいます。

取り入れた水は何とか料理できるものの、相手が河川になると話が別です。動員される物量も大きく、判断の狂いや施工管理の手抜きが致命的となります。7月中には何とか見通しをつける積りでいます。

ジャララバードはテロリストの巣窟のように見なされていますが、人々は案外落ち着いています。もう誰もが「外国製のテロ戦争ゲーム」に辟易していて、特に貧乏人は他に逃げるところもなく、その日その日を懸命に生き伸びるだけだからです。

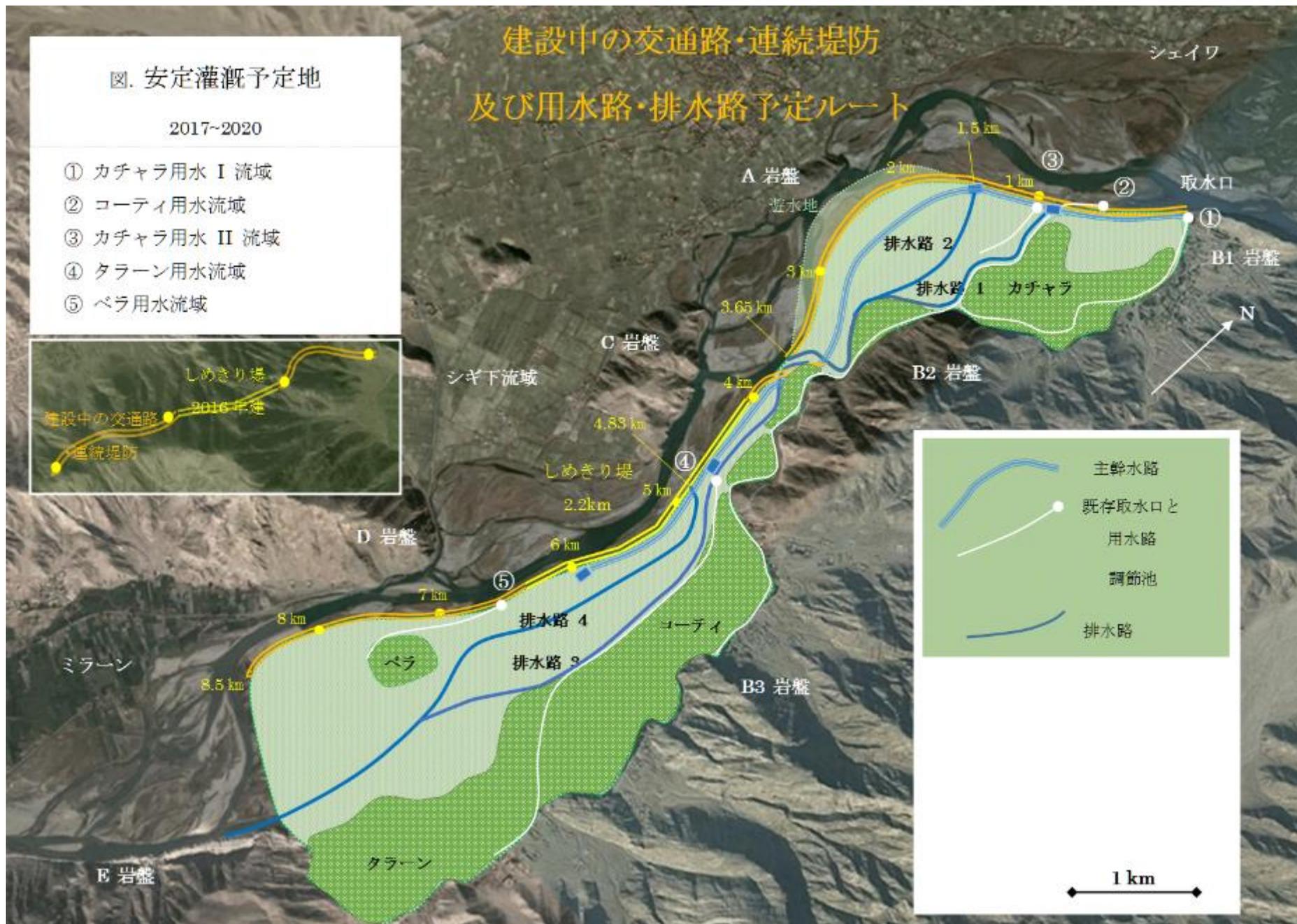
川を見る毎日で、ごうごうと音たてるクナール河の濁流は、さすがに圧倒的、実物の自然と向き合っていると、人間界のフィクションが煩わしく見えてきます。

とはいえ、煩わしいことを人に頼んでいるから川に張りつける訳です。特に **PMS- Japan** (支援室) の強化は大いに負担を減らし、資料整理、英訳出版、共同調査、ビデオ教材、報告書作成も見通しが出てきているようで、ご協力に感謝します。また、テクノ社の協力助言も心強く、少しずつ実のある **20年**態勢を整えていこうと考えています。どうぞ宜しく願い申し上げます。

しばらくは濁流とにらめっこで、ない知恵を絞りだしています。

平成 29年 7月 2日 記

2017年7月更新。排水路2は、大洪水浸入後に形成された新河道で、実際には大小が入り乱れて、3.65 km地点でクナール河に戻る。) 後述



マルワリードⅡ堰、土砂吐き部の現在。主要河道の流れを受けて、堰の中で最も水量が多い。みお筋とつながっているのが観察される。
なお、可動堰のコンクリート棒のサイズは（200×200×1200 mm）。問い合わせがあったので念のため。2017年06月29日



水門下流側を見る。水位は1.5~1.6m。水門番が要領をよく会得して、水量調節に不安はない。工事で出向く PMS 職員が総出で教えるからだ。2017年06月29日



カチャラ用水路への分水。沈砂池を経ないので土砂流入量が多くなるが、スリット状の壁を立て、多少は減ると思われる。2017年06月29日



水路は約 60m を暗渠にし、水門部周辺のスペースを広げている。2017 年 06 月 29 日



水路壁下段は、現在 1.3 km地点を造成中。上段施工は通水してからでもできる。早急に送水できるように、まずは下段壁建設を急がせている。近辺の村からくる労働者は約 150 名、一般に勤勉で手抜きがない。やはり石積みが好きで、丁寧に仕上げる。農民は全て有能な石工なのだ。短期間に習得し、PMS 出向のブディアライ組は退いた。2017 年 06 月 29 日



沈砂池、コーティ用水路、主幹水路、排水路の位置関係を示す。交通路は6月中にベラ村（約6.2 km地点）まで開通。カチャラ分水路Ⅱは、少し遅れて今週から着工。地主間の調整がまとまらなかったためだ。2017年06月29日

